

2025年入学式告辞

2025年4月1日

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。市邨学園名古屋経済大学は本日、大学院に60名、学部506名、合わせて566名の入学生を迎えることができました。名古屋経済大学の教職員を代表して、心から皆さんの入学を歓迎いたします。キャンパス内の桜は皆さんの入学を歓迎するかのように満開を迎えました。この春爛漫の良き日に、原欣伸（はらよしのぶ）犬山市長、柴田浩行（しばたひろゆき）犬山市議会議員、伊藤正久（いとうまさひさ）犬山商工会議所副会頭、松本光生（まつもとかうせい）名古屋経済大学同窓会長 はじめ来賓の方々のご臨席を賜り、入学式を挙行できることをうれしく思います。また、ご参列いただいた保護者の方々にもお子様のご入学を心からお祝い申し上げます。新入生の皆さんは、希望に胸を膨らませて、この場に臨んでいることと思います。どうか、このわくわく感と希望を忘れることなく、学生生活を送ってください。ここからは皆さんへの期待の言葉を述べ歓迎のあいさつとしたいと思います。

市邨学園の創立者である市邨芳樹先生の教えに「一に人物、二に伎倆」という言葉があります。これは本学園の建学の精神であります。IT技術の急速な発達、近い将来、ITとりわけ生成AIが人のすることのすべてを肩代わりしかねない状況にあります。しかし、このような時代にあっても、価値判断をするのは人であり、そのために、我々は人としての良識を持ち、社会で尊重される人物であることが求められます。皆さんは18歳成人の法制化により、大人としての自覚を問われてきたと思いますが、我々は、新入生

の皆さんを、あえて大人としては扱わず、4年間をかけて立派な大人に育てていく所存です。一年生から少人数クラス制をとり、日常生活の送り方も含めて教育をしていくつもりですから覚悟をしてください。

また、現代では社会が必要とする人物像が大きく変わり、大学で身につけることが期待されている能力が変わってきました。高校でも指導要領が大きく変わりました。その変更は一言でいうと「知識偏重から社会人基礎力重視へ」ということで、「考える力やコミュニケーション能力」の養成が重視されるようになりました。高校では「探求」に代表される考える能力を身につけるための授業が行われるようになったと思います。高校からは本学にも「探求」の授業への協力要請が多く寄せられています。そうはいつでも高校ではまだ、正解を覚える大学入学試験対策のための学習が大きな比重を占めていたと思います。本学では「実学の名経」のキャッチフレーズの下に10年以上前から社会人基礎力養成のためのプログラムを多数展開してきました。

本学は、グローバル人材の育成を教育目標に掲げています。グローバルとはグローバルとローカルを合わせた和製英語です。ローカルにすなわち地域に密着し、地に足をつけて具体的に物事を考え、グローバルに活躍する人材を養成することを教育目標にしているということです。

本学は、犬山にある唯一の大学として地元にも愛され、期待されていると自負しています。このことは、4月1日という年度初めのお忙しい中、犬山市長、犬山市議会議員、犬

山商工会議所副会頭が本学の入学式にご臨席下さっていることから分かります。

犬山は、若い人や外国人に人気のある観光地として有名ですが、国宝犬山城を擁し、博物館明治村、野外民族博物館リトルワールド、博物館白帝文庫、博物館日本モンキーセンターなど、博物館には必須の学芸員という研究者を擁する研究組織が多数集積した学術都市です。本学では、これらの研究組織の協力を得て、犬山市とその周辺地域を学びの場所とした「体験型学習」の授業を1年生全員に提供しています。先ほど言ったとおり、高校までの学びは、大学受験のための勉強で正解があることを前提に、その正解を覚えることが中心であったかと思いますが、社会に出て解決をしなければならない問題の多くは、唯一の正解があるわけではありません。目の前にある地元の具体的問題の在り方を理解し、その解決策を考えることは、今後皆さんが、社会に出て活躍するうえできわめて重要な能力です。

また、我々の日常生活がグローバルな連鎖の中にあることは明らかであります。皆さんが将来、社会に出て活躍するためには、グローバルにものを考え、活動することが求められます。少子高齢化が進む日本にあっては世界を市場とする企業でなければ将来はありません。したがって、名古屋経済大学は、皆さんがグローバルに活躍できる人材に育ていただくために、10年以上前からキャンパスのグローバル化を目指して、留学生を積極的に受け入れてきました。今年も、本学は121名の留学生を受け入れることができました。今日からは360名以上の留学生がキャンパスで学ぶことになります。留学生の皆さん

ん手を挙げてください。本学では希望すれば日本人と同じ条件で日本企業に就職することを留学生に保証しています。そしてそれを実現してきました。そのために留学生に求められる最も重要な能力の一つは日本語によるコミュニケーション能力です。これを身につけるためには日本人の友人を作ることが一番です。残念ながら日本人学生は一般的にシャイです。留学生の皆さんは遠慮することなく日本人学生に話しかけてください。日本のことについてどんどん質問をしてください。遠慮はいりません。これは日本人学生のためでもあります。日本人学生は意外に日本のことについて知りません。本学の国際交流センターが留学生のために企画する、着物の着付け教室とかお茶席体験とかは日本人学生にも必要だと思っています。留学生が周りにいるということは、真の国際人に必要な国際コミュニケーション能力をつけるために日本人にとってもまたとない恵まれた環境ですから、大いに生かしてください。また、海外留学のメニューも日本人、外国人に区別なく多数用意していますので利用していただきたいと思います。

従来、ITの発展によりどのような職業が必要となり、どのような職業がITにとってかわられるかは様々に議論されてきました。例えば、自動運転技術の発展は運転手を不要にするとか、ロボットの発達で重労働を不要にすると言われてきました。しかし最近の生成AIの急速な発達は目を見張るものがあり、自動翻訳技術の発達は同時通訳者や翻訳者を不要にするとか、国会の定型的答弁を用意する官僚の仕事は不要となるとか言われ、ブルーカラーの仕事よりホワイトカラーの仕事の方が必要なくなるという説が有力にな

っています。さらには、小説、絵画、アニメの作成や作曲、薬の開発などにも A I 技術が貢献するようになり、より創造的分野にまで AI 技術が使われるようになってきました。この急速に発達する技術がどうなるかに一喜一憂するのではなく、いかなる事態にも柔軟に対応できるように学び続けることが重要です。

現在では、大学に入学することが学びのゴールではなく新たな学びの出発であり、皆さんは4年後にどこの大学を卒業したかではなく、大学で何を学んだかが問われることになります。そこで問われる内容は、正解があるような知識ではなく、考える能力であり、急展開する社会に柔軟に対応する能力です。そのような能力を身につけるために皆さんは、何事にも好奇心を持って、広く学び続けてください。

しかし、誤解をしないようにしていただきたい。建学の精神である、「一に人物、二に伎倆」とは伎倆が重要ではないと言っているわけではないのです。グローバルに活躍できる人材となるためにも基礎学力は必要です。本学では、コンピューターリテラシーについてはマイクロソフトのMO S の資格取得を必須にしていますし、一年生全員にネイティブの教員による英会話を習ってもらいますし、「基礎力養成講座」を能力別に受講していただきます。数学ができないから文系に来たという人も少なくないかもしれませんが、簡単な数学ができなければ社会生活も不便ですし、I T の基礎を理解することは不可能です。われわれがこのように基礎力にこだわるのは、皆さんを受け入れた以上、立派な社会人として社会に送り出す覚悟の表れだと思って、これらの授業についてきてください。

もう一つ人生の先輩として申し上げたいことがあります。大学生活の4年間は、人生100年のうちのわずかな期間ですが、皆さんが将来、一年ごとを具体的に思い出すことができる貴重な4年間になります。この期間にしかできないことを是非してください。たとえば、ボランティアやサークル活動を通じて、利害関係のない、一生付き合うことのできる親友を作ってください、また、仕事でも趣味でも良いのですが、自分が一生続けたい好きなことを見つけてください。そして、自分の確固たる価値基準を築いてください。生成AIがいかに発達しようとも、どう行動するべきかを判断するのは人間でなければならぬので、価値基準をもつことは極めて重要であると思います。

皆さんのこれからの学生生活が充実した実り多いものとなることを祈念するとともに、本学がそのための機会を提供することをお約束し、私の告辞とします。

あらためて、入学おめでとうございました、